

令和3年1月22日

委員氏名 栗原伸一郎

第3回（仮称）仙台市公文書館運営検討会議
議案等に対する意見について

【議案】歴史的公文書等の収集選別について

項 目	意 見
	<p>第3回目の資料については、大きな疑問はありません。そのため前回の会議であまり議論にならなかった現場での評価選別の作業に関して記します。</p> <p>①現在の計画だと、評価選別の作業では、各グループで選定した結果が尊重され、それが公文書館の意思となるように解される。だが、仮に一般行政職員と非常勤の専門職員がグループを組むならば、短期間で入れ替わる少人数の人々に評価選別が委ねられることになる。もしも常勤の専門職員を置かないのであれば、もう少し精度を上げるような工夫があった方が良く思われる。</p> <p>例えば、専門的知見を有する第三者のチェックを入れるようにしてはどうか。ちなみに宮城県公文書館では、これを行っていないが、一般行政職員・非常勤専門職員全員が全ての文書の評価選別に関わり、議論を通して多様な視角で文書を収集するよう努めていた。</p> <p>②評価選別する際は、簿冊のタイトルなど文書管理システムにある情報のみで判断するのだろうか。仮にタイトル等のみで選定・移管した場合、実際の中身が予想と異なり、結果として収集選別基準に沿わない事態も発生すると思われる。逆に、重要な文書が選定から漏れてしまう可能性もある。そのため、可能な範囲で、現物を確認した上で評価選別するよう努めるべきである。なお、宮城県公文書館では、県庁書庫にある文書に関しては確認していた。</p> <p>震災関連文書の場合、「震災」「被災」「復興」などといった直接的な文言がタイトルに含まれない簿冊が多々あると思われる。また、時間の経過に伴って、それらの内容はタイトルからは判別しにくい、その他の簿冊に吸収されていくのではないかと。</p> <p>「基本的な考え方」に沿って震災文書を収集していくためには、基準だけではなく、①②のような実際の作業方法についても留意すべきだと思われる。</p>